

2018年度優秀論文賞

第52号掲載、平山賢一著「1936年の低利借換えと国債市場」

本論文は昭和初期の国債市場における、特殊な状況下における国債価格の逆転現象に焦点を当てた研究である。学術的意義としてはイールドスプレッドの整理を通じて昭和初期の国債市場の市場特性の一部を明らかにするものであり、これまであまり取り扱われてこなかった低利借換えについても新たな視点から、その実情を明らかにした点である。丹念なデータ分析と歴史的背景や市場参加者の行動を取り入れた、堅実な研究といえるだろう。

本論文は戦時時期という厳しい財政状況において、国債借換えに際し何らかの条件が付されることによって投資家が損失を被る可能性があるという状況での国債価格の逆転現象を取り扱っており、ある意味では、現在の国債市場に対しても大きな含意を持ちうるだろう。

以上の理由をもって、2018年度証券経済学会優秀論文賞とする。

2018年12月1日

証券経済学会年報編集委員会

委員長 翟 林瑜